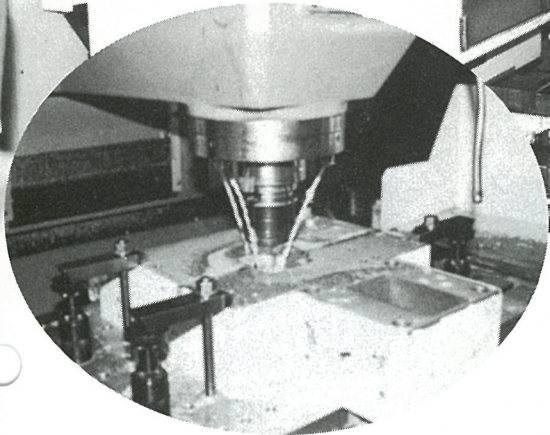
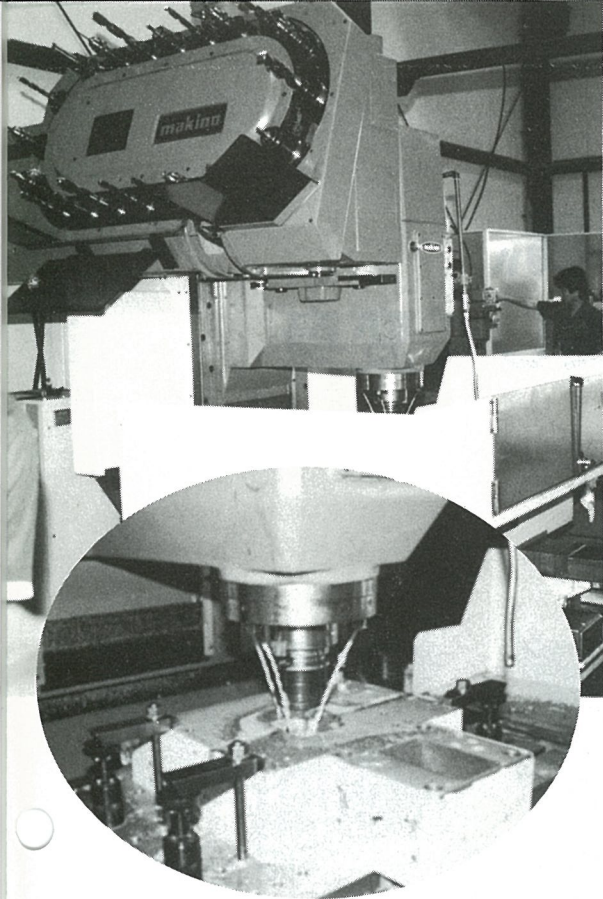


町内の会社 紹介します

株式会社 阿部工作所
所在地 長 塚
代表取締役 阿部悦行氏

株式会社阿部工作所は、主にプラスチックを原料とした各種のふた類（化粧品・薬品類）や電算機のキーボードなどを作るための大元である金型を製造している会社です。同じ形の品物がばく大な数量を必要とする場合にこの金型が用いられます。コンピュータで大きさ、形などに応じた金型の設計をし、コンピュータ制御によるマシ

ニングセンターなどの最新鋭機械により金型が作り上げられます。ミクロの単位で設計は行われ、ほんの少しの誤差も許されません。原料の性質を十分に研究したうえで設計され、設計が完成すれば製品の六十パーセント以上はできたも同じということですから。完成した金型は同系列の成型会社へ送られ、プラスチック製品の製造に使われます。「最近ではOA機器用の注文が多いですね、これからも精度の向上、納期の短縮、コストの低減を最大目標に努力していきたい」と語っておられました。昭和五十三年に東京から当町に移転され、現在に至っています。この金型でこのキャップができるんですよと見せていただいた時には、とても驚きました。



厚い金属板が削られ金型になる
(最新鋭機械 マシニングセンター)

町長 ひとりとごとの

斉藤 讓

去る四月二十九日、光楽園老人ホーム会長・千原興業氏が急逝された。齢七十七歳といえ、当ホームにとっては生みの親であり掛替のない方で、惜みある死であった。

千原氏は、明治四十三年に韓国に生まれ、幼くして両親を失ない身寄りのない孤児となつて塗炭の苦しみの中から、志をたてて来日された。来日後も苦境は続き、独学による勉学とともに新聞配達、雑役夫などあらゆる仕事に裸一貫で取り組み、筆舌に尽しがたい辛酸をなめながら、生来の忍耐力と勤勉さでこれを克服し、遂に製靴販売事業で大成功をおさめ、今日の一大基盤を築かれたのであります。

このような苦難を体を張って乗り越えてこられたのにもかかわらず、不断の千原氏の顔は、いささかの険しさもなく、穏やかで慈愛に満ちた表情をしておられた。これは決して繕ってできるものではなく、氏の仁徳の然

しめるところである。

ところで、家庭を築き、事業に成功された千原氏は、自らの苦難の半生を顧みて、又亡きご両親への孝養にかえて、以後の人生を社会福祉、とりわけ恵まれない薄幸の老人達のために奉仕しようと決意されたのであります。昭和三十八年のことである。当時、わが国には経済的やその他の理由で、居宅で生活することができない老人が数十万人も存在する状況であり、また、これらに対する政策は、先進諸国に比較して著るしく立ち遅れ貧困であった。

千原氏は、縁あってこの光町白浜の地に老人ホームの建設を計画し、時の町長椎名 彰氏など関係者の協力を得て、昭和四十四年一月、収容人員九十名を擁する社会福祉法人として施設を開設したのである。勿論この建設には、千原氏の多額な私財が投入されたのである。千原氏は開設以来施設の改善に努める一

方で、お年寄り達とこのホームで寝起きを共にしながら家庭的雰囲気をつくり、まるで両親を労る如く接し、いつしかお年寄達は、氏をまるで一家の父親のように慕い、尊敬と信頼を寄せ理想的な老人ホームをつくりあげたのである。

その崇高な奉仕の精神には唯々敬服するばかりである。特に、最近では地域社会との触れあいを力を注ぎ、町内の一人暮らしの老人などへホームを開放し、活動の輪を広げていきたいと熱く抱負を語っていた。

私もこれからの老人福祉は、これら施設との協調が大変重要であり、是非とも力を合わせて新しい福祉の道をつくってという期待していたところである。この矢先に、千原氏を失ったことは誠に残念であり無念でならない。しかし、千原氏が残された老人福祉に対する情熱と輝かしい功績は、必ずや後継者達に引継がれ当ホームとともに長く発展していくものと確信するものである。私も千原氏の意を体し、更に一層福祉の向上に努力を傾注する決意であります。千原氏のご冥福を心からお祈りする次第である。